

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105123
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 福平
所在地	鹿児島市下福元町7505番地 (電話) 099-210-8550
自己評価作成日	令和2年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年12月16日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、コロナ感染症予防のため、ご家族の面会を制限したり、行事を自粛したり、ご利用者様には今までにない寂しい思いをさせていますが、各ユニットごと室内でできる行事やレクレーションを行って楽しく過ごしていただけるようにしています。職員も行動制限を行っていますが、経験年数が高い職員が集まっているため、今何をすべきなのか自主的に考え、ご利用者に合わせたケアを行っています。ホームのお便りを作り、毎月ご家族に様子を知らせています。今は面会もできないのでお1人ずつ様子を詳しくお伝えできるように工夫しています。ご利用者様の重度化がみられるようになり、ホームでの看取りについて、ご家族やご本人の希望があれば主治医と相談しながらお世話が出来ればと考え、職員の研修にも力を入れています。ご利用者にこの施設にきて良かったと思われるように楽しく喜んでいただき、笑顔いっぱいのホームをこれからも継続していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市街地に位置するホームは、地元の方の戸建や集合住宅、新築住宅が共存する地域で、自治会に加入し回覧版を通じて地域の情報収集をしたり、地域の方から差し入れがあるなど、地域との交流は積極的におこなわれている。

ホームは、有料老人ホーム、小規模多機能型施設と併設しており、運営推進会議などは合同でおこない、非常災害時の連絡や連携体制が構築されているが、現在は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため会議などは活動を休止している。管理者は、書面にて事業所の状況や利用者の様子などを市担当者に報告している。

開設当初からの理念は、「地域の中でその人らしく、安心して、暮らし続ける」という地域密着型サービスを意識したものであるが、各ユニットごとに理念があり、毎月の目標達成に向けて職員全員で話し合い次の目標に向けて意識向上を図り、確認するなどして常に理念に沿ったケアを提供するなどしている。

ホームの庭には菜園があり利用者は、じゃがいも、大根などの季節の旬の野菜の成長や収穫を楽しみにしている。庭の桜の木の下でのお花見会は地域の方も誘って手弁当で楽しんだり、誕生会には特大のバースデイケーキでお祝いをしたり、行事食などは嗜好を取り入れ、家族などからの差し入れを料理に活かして食事が楽しみになるよう食事形態を工夫し、本人のペースで食事ができるよう取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、現在、外出機会が減り居家で過ごす日々が続いているが、家族などとの絆が途切れることがないように写真を活用してコミュニケーション継続に努めたり、レクリエーションを充実させ季節を感じられるよう掲示に工夫をしたり、電話やメール、ラインなどのIT機器を駆使して情報を発信し利用者の生活状況などを伝え安心していただけるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基本として、ユニット独自の理念を作成し、より個別ケアを深められるように実践しています。理念を踏まえた月の目標を立て取り組んでいる。	開設当初からの理念は、地域生活を強く意識した理念になっており、各ユニットごとにそれぞれ理念があり、毎月のケア目標が設定され、毎朝職員全員で唱和し、スタッフ会議などで触れる機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症予防のため交流ができなくなっていますが、町内会の回覧板で、行事の案内を頂いています。	事業所は自治会に加入し、地域行事へ参加やホームの夏祭りなどを通じてより一層地域の一員としての絆を深めている。また、小学生、高校生や一般のボランティア、中学生の職場体験の受け入れなど地域貢献も積極的におこなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ感染症予防のため交流ができなくなっています。再開できた時には、受け入れをしていきたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症予防のため4月に電話での話し合いで見合わせている。早く再開したいと思っている。	定例化された会議のメンバーからは、毎回活発な意見や要望など提案され、有料老人ホーム、小規模多機能職員との合同会議になっている。会議と防災訓練を同時に実施し参加メンバーに避難時の協力や理解を頂いている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	よりよいサービス提供に繋がるように相談し、情報を取り入れている。また生活保護の方で身元引受けのない方がいるので、担当者に協力をお願いしている。	市担当者や福祉事務所職員とは、日頃から面談や電話などで意見交換したり、指導や助言など受けている。また、毎年、介護相談員を受け入れるなどして、介護サービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	コロナ感染症予防のため短時間になったが、勉強会は継続している。危険行為のある場合は、安全を確保の仕方や見守り強化を行い、身体拘束をしないケアを行うように話し合っている。	身体拘束等適正化を図るための指針が整備されており、定期的に会議が開催されている。チャイムやセンサーなどはなく、利用者に寄り添い見守りを重視するなどして自由に暮らせる生活の実現に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	肉体的虐待や、言葉による精神的虐待について等短時間になったが大切なことなので勉強会を継続している。日々のケアを振り返り、虐待を見逃さない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての勉強会を行い、必要な方が入居されても対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書の内容を読み上げながら説明を行っている。退去・利用料・入院などトラブルが予測される事項は、特に詳しい説明を行い、理解、納得出来る様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見を頂きやすいように、玄関に意見箱を設置したり、面会簿にメモ欄を設けている。面会時には、何でも話せるような雰囲気づくりをしている。頂いた意見はスタッフ会で意見交換し、支援の参考になっている。	本人の意思は、日頃ケアの中で言葉や態度などから推察したり、家族から意見を聞いたりしている。家族は、面会時や年2回の家族会、行事、面会簿にメモ欄を設けて意見が出しやすいよう工夫をして意見をもらっている。また、運営推進会議の時に、意見を拝聴して出された意見は、月1回のスタッフ会議で報告し、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員のできる能力を引き出し、意見や提案を出してもらっている。管理者は代表者と連絡を取り運営に関する意見が言えるようにしている。どんな事でも皆で話し合える雰囲気作りに努めている。	管理者は、毎月のスタッフ会議や申し送り時に、職員から意見を聞く機会を設けている。職員から出された意見は、代表者に報告し業務の改善や見直しをして職員が働きやすい職場環境、業務遂行のための橋渡しの役割を担い、忌憚なく意見交換ができる関係性作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者がスタッフの勤務状況を把握し、代表者へ報告している。代表者は多方面から、職員個々の状況に気を配り、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がスタッフの力量を把握し、代表者へ報告している。コロナ感染症予防のため短時間となったが、法人内の勉強会をして、スキルアップに繋がるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ感染症予防のため交流ができなくなっています。情報交換の場を作り、サービス向上できるようにしていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より本人が不安に思っていることや要望を、本人・家族に聞いたり、情報提供書などで確認し、不安を取り除き安心して生活出来るようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の希望や要求を聞き、出来るだけ添えるように伝え、小さなことでも連絡を取り合い、対応していけるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時、本人にとってどうしたら良いかを家族や本人と相談、いろいろな可能性を話し合い見極めに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で無理なく出来る事を一緒に行う。常に人生の先輩であることを意識し、学び合いながら過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様はもちろんの事、ご家族の方の相談も傾聴し思いを共有しながら一緒に本人を支えて行けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ感染症予防のため交流ができなくなっています。面会制限も行っているため、利用者様が忘れないように、ご家族の名前や思い出を話している。	新型コロナ禍で外出を制限しているためこれまで美容室、理容院に出かけたり、自宅訪問などもできなくなっているが、家族との絆が薄らぐことがないよう家族写真を活用してコミュニケーションを取るようにしている。また、電話やホーム便りなどを通じて、暮らしぶりをお知らせしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格、認知症の程度等を考慮しながら、座席も配慮し、利用者同士がやさしく楽しく関わり合える生活の場になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ退所された方はおられないが、亡くなられた方についてはお参りをしたり、ご家族からいろいろな相談を気軽にさせていただける様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話の中や生活の中から本人の望む生活が出来る様に見つけ支援する。意思疎通が困難な利用者は、日常の様子を見聞きして、本人らしい暮らしをケア出来る様にしている。	家族や利用者の担当職員の意見を参考にしたり、日頃の暮らしぶりを参考にしながら本人の思いに触れ思いを共有しながら本人の望む暮らしの実現に向けて話し合っている。思いや意向について職員間で共有するため、月1回職員会議、カンファレンスなどで意見交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活暦を聞いたり、日常生活の中での会話や様子等で、情報収集をしている。それまでの生活環境を大事にしたケアに努めている。家族にもその都度聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや意見ノート、ケースカンファレンスによって、一人ひとりの心身の状態を把握し、共有出来る様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し月1回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の評価・見直しについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望を反映したプランになるように努めている。	毎月のスタッフ会議で介護計画の随時の見直し・評価を実施するなどカンファレンスを開催している。介護計画は、本人の実情に即した計画になっており、本人や家族の思いや希望を反映した計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、ケアプランを頭に入れながら、異変や気づいた事を細かく記録し、職員全員が情報を共有し、毎月のスタッフ会議で討議しながら支援を行っている。毎日の引継ぎを大切にしている。プランの内容について、いつでも見れるよう記録簿の表紙裏の貼っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の変化するニーズに合わせ、臨機応変に対応している。また、利用者の体調変化には早めの対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症予防のため交流ができなくなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を優先し、連携を取りながら支援している。受診時は状況を適切に把握するために「病院受診連絡表」を活用している。ホーム側で受診した折には、結果報告を必ず家族に連絡するようにしている。	本人が希望するかかりつけ医になっており、定期的な訪問診療を受けている。主治医は、認知症専門医であり病状や内服薬、治療などの相談もしやすい。受診時は、「病院受診連絡表」を活用し情報を共有し職員が対応しているが、他科受診などは家族に協力をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員と介護職員は連携をとりながら、少しの変化も見逃さず、体調管理を行っている。看護師には常に連絡が出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は家族から情報を得たり、医療機関より情報を得たりしながら、早期退院できるように取り組んでいる。また、本人・ご家族の不安を軽減出来る様に話し合いも行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の付いて、本人、家族の意向を聞いており、その方針は全員共有している。また状況変化に応じて、その都度、再確認している。看取りについても勉強会をして学び、主治医と連絡を取りながら実施している。	入所時に、「重度化した場合に係る指針」「医師や医療機関との連携体制」にて説明し、「医療連携体制同意書」にて同意をいただいている。重度化した場合は、段階に応じて説明し十分に話し合い、その都度同意をいただいている。主治医や訪問看護などの医療連携が図られ、利用者や家族の希望や意向を確認しながらホームででき得る最大のケアについて話し合い、納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。コロナ感染症予防のため救急蘇生等の実習はできてないが、勉強会で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練はコロナ感染症予防のため消防署の立ち合いはしてないが、安全に避難誘導できるように自主訓練をしている。次回からは立ち合い再開したいと考えている。	年2回、昼夜想定避難訓練をユニットごとに実施、また、毎月9のつく日は救急の日と定め、安全点検や勉強会を実施して普段から防災についての心構えを徹底している。コロナ禍前は、同敷地内の法人事業所での合同訓練を実施し協力関係を築いている。発電機は家族から寄付されており、備蓄は水やレトルト食品、缶詰、カセットコンロなどがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から一人ひとりを大切にす る、言葉掛けや介護方法を話し 合い、意識の向上を図ってお り、理解して対応している。個人 情報保護法や取り扱いについ ても周知している。	利用者一人ひとりに尊厳を持って年長 者として敬い、普段から失礼のないよ う言葉かけている。その方に合った 声かけや言葉使いもあり、個別に対応 するなどしている。プライバシーや個人 情報の取り扱いについては、慎重に 取り扱っている。職員は、定期研修を おこない自己研鑽に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり、自己決定できるように働きかけ ている	日々の生活の中で、常に本人が どのように生活したいのかを探 りつつ、本人の思いを大切に し、不安なく心豊かに暮らせる 様、家族の思いも尊重しつつ支 援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、本人 のペースに合わせた声掛けを行 い本人の希望を大切に支援して いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるよう支援している	家族からの情報や本人の様子を 確認して、本人が心地よい生活 が出来る様にしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者様の好き嫌いを確認し、嫌 いな物も食べていただくように工 夫したり、旬の物や、行事食等そ の時その時を大切に美味しく楽し く食事が出来る様に努めている。	嗜好調査をおこない好みの変化にも臨 機応変に対応するなどして食事が楽し めるようにしている。誕生日は特大 ケーキ、そば切り、おせち、手作りの おやつ（ふくれ菓子、かるかん饅頭） など楽しんでいる。また、3か月ごと に法人の管理栄養士による栄養指導な どを受け調理を工夫している。地域 の方の野菜の差し入れ、菜園の旬の野菜 も食卓を賑わせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、嗜好、摂取状況に合わせ、食事量と水分量を把握し提供している。水分不足になりがちな利用者へは工夫して摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン周期を把握し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、対応できるように支援している。	一人ひとりの排泄のリズムを把握し、ブラパシーに配慮した声かけ、トイレ誘導を心がけている。ポータブルトイレを使用される方、布パンツを使用される方などおられ、日中はトイレでの排泄支援、夜間はポータブルトイレやおむつなど併用してできるだけ気持ちよく過ごしていただくよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットミルクや毎日の食事でも繊維性の食物を多く摂取する工夫している。排便周期のチェック、水分、散歩、腹部マッサージ等随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調や希望を取り入れ入浴を楽しんでいただいている。	曜日を固定せず日曜日以外は、本人の希望や必要性に応じて入浴が楽しめるよう配慮している。年々、重度化しており二人介助で入浴される方も増えてきている。入浴剤を使用して入浴を楽しまれる方も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時にはホットミルクを飲んでもらったり、ゆっくり話をしたりして安心して休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別にセットしてもらい、間違いのないようにしている。職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。与薬については必ず2人で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担し、役割や自信を持って生活出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームの庭が広く、外の陽や風に触れることが出来るよう散歩や日光浴をしている。コロナ感染症予防のため外出の支援は見合わせている。	広大な敷地には、桜の木々が植えてあり、天候の良い日は散歩を楽しんだり縁側で外気浴をしている。年間行事計画を作成し、日常的に外出ができるよう取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため現在は自粛している。そのため、レクリエーション活動を充実し、集団体操を取り入れるなどして運動をおこない、機能訓練に努め身体機能が低下することがないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ感染症予防のため、一緒に買い物など行けていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人に電話連絡をしたい時は、電話ができるように支援している。お届け物があつた折には、必ず電話し本人にもお話をさせていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>皆さんが集まるホールでは季節の飾り物を作ったり置いたり、音楽、テレビもゆっくり見られるようにしている。温度、湿度についても気をつけて居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>1階と2階の往来にはエレベーター、階段が設置され、玄関にはホームの理念や職員紹介（写真入り）など掲示され、リビングには、季節の生花が飾られソファが置いてあり好きな時にゆっくりと過ごせる工夫がしてある。採光もあり、壁には旅行の写真や行事の写真、利用者の作品などが掲示してある。対面式キッチンで食事の準備をお手伝いされる方や職員の様子が伺え家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間でもテーブル、座席の配慮や和室の設置でゆっくりとお話を聞いたりして思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の居室には、ベッド、タンス備え付けてあり、自宅から馴染みの身の回り品等持ち込まれ、安心して過ごせる環境整備を行っている。また利用者の状態に合わせて危険のないような配置にその都度変更している。</p>	<p>居室入口に紐付きのネームが掛けてあり、避難の際は退室確認ができるよう工夫されている。ベットは身体機能などに応じて検討されており、手製暖簾を掛けている方、テレビ、仏壇や位牌、タンス、ソファ、家族写真など馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各箇所手すりが設置されており、全ての扉は引き戸で無理なく開閉出来るようになっている。トイレには目印をつけたり、夜間でも自由に移動出来る様にしている。移動に気付いたら見守るようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない